

エピソード

冷蔵庫やトイレなどをつくって、おうちごっこを楽しんでいた子ども達。椅子を同じ向きに何列も並べていくと「車みたい!」「僕の家にも車があるよ」と、車に見立て始めました。「先生乗っていいよ」と保育者に声を掛け、運転手になりきって「ブーン」と言いながら手でハンドルを動かす真似をします。楽しそうな様子を見て「私も乗りたい!」と友達が集まってきました。「いいよ。これは車なんだよ」と友達の存在を受け入れ、みんなで椅子に座りました。「私も車に乗ったことあるよ」「おばあちゃん家に行った」「シートベルト、ガッシャン」など、車と聞いて思いついたことを、思い思いに話したりやってみたりしました。すると、一人がバケツに砂を入れて車まで持ってきました。保育者が「それは何?」と聞くと、「ごはんだよ」と嬉しそうに答えます。「車に乗っていたらお腹すくもんね。いいね」と考えを認めると、ニコツと笑い車の中で美味しそうに食べていました。

子どもの育ちや学び

出発しまーす



面白そう!



いれて

お出かけ
楽しみだな

並んでいる椅子をからイメージし「車」に見立てています。一人の声がこの遊びのきっかけになり、「やってみたい」の気持ちが友達へと広

楽しそうな声や姿に刺激となり、関心が“自分のしたい遊び”から“友達のしていること”変化してきました。「いれて」「いいよ」などの簡単な言葉のやり取りも増え、友達との関わりが広がっています。

自分が体験した生活経験を思い出し保育者や友達に話しています。車＝シートベルトも結びついており椅子に座ったらすぐにベルトを締め

保育者の思い

- ・一人の発言を大切に拾い上げ、保育者も同じように楽しむことで、遊びのきっかけとなってほしい。さらに、友達にも楽しさが広がってほしい。
- ・車といえばどんなことを考えるのか、子ども達の思いを知りたい。保育者からたくさん声を掛けるのではなく、待つことで言葉を引き出したい。

家庭だったら・・・

今回取りあげた遊びは、子ども達の生活経験がよく表れていました。普段何気なくしていることでも、お家の人の声や行動は子ども達の心にしっくりと印象づいていますよ。